

奨励品種水稲うるち「南海109号」について

農業研究センター 高原農業研究所

研究のねらい

近年の良食味志向の高まりから、高冷地では「ミネアサヒ」「コシヒカリ」の作付が増加し、「日本晴」の作付面積は激減している。

「ミネアサヒ」と「コシヒカリ」の熟期は近接しているため、収穫時期の集中、刈遅れによる品質低下が問題となっており、「日本晴」級の良質・良食味品種が強く求められている。このため、昭和63年から良質・良食味の高冷地及び中山間地向き品種の選定を行った。

研究の成果

1. 来歴

良質の「南海82号」を母とし、強稈良質の「黄金晴」を父とした人工交配品種である。

2. 品種特性

- (1) 成熟期は「日本晴」より1～3日遅い早生の晩種である。
- (2) 稈長は「日本晴」よりわずかに高く、穂数はやや少ない中稈・偏穂重型である。
- (3) 収量性は「日本晴」と同程度か、わずかに低く、「ミネアサヒ」よりやや多収である。
- (4) 玄米は中粒で、腹白、心白、乳白が極めて少なく品質は良好である。食味も「日本晴」より良好である。
- (5) いもち病、白葉枯病耐性はやや弱である。

3. 普及地域 高冷地域、中山間地域

普及上の留意点

- (1) いもち病及び白葉枯病にやや弱いので、適期防除に努める。
- (2) 耐倒伏性はやや強であるが、多肥条件下では稈長の伸びが大きく、「日本晴」と同程度の倒伏が認められるので、適切な肥培管理及び水管理に留意する。

表1 生育特性

系統名 又は 品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 程度	穂いも ち病
南海109号	8.22	10.10	84	19.1	421	0.8	1.5
日本晴	8.21	10.7	82	18.9	478	1.1	1.2
黄金晴	8.23	10.11	79	19.0	434	1.1	1.0
ミネアサヒ	8.13	9.25	76	19.2	471	0.1	1.2

注) 昭和63年、平成元年、平成3年、平成4年の4ヶ年平均値
(平成2年は7.2火山灰土流積災害による圃場埋没のため除外)

表2 収量及び品質

系統名 又は 品種名	玄米重さ (kg/a)					玄米 千粒 重	品質	検査等級			
	S63	H1	H3	H4	平均			S63	H1	H3	H4
南海109号	60.6	66.3	56.1	65.2	62.1	22.1	4.1	1.中	2.上	1.中	1.上
日本晴	61.7	64.7	59.3	63.9	62.4	22.5	4.5	2.中	1.下	1.下	1.上
黄金晴	60.3	64.7	60.0	67.0	63.0	21.5	3.7	1.中	2.中	1.中	1.上
ミネアサヒ	59.4	65.7	58.6	61.4	61.3	20.6	4.0	2.下	1.中	1.中	1.中

表3 食味検定結果 (平成4年 高原農業研究所産)

系統名 又は 品種名	食味検定項目					
	外観	香り	味	粘り	硬さ	総合評価
南海109号	+0.250	-0.083	+0.583	+0.333	+0.500	+0.583
ミネアサヒ	+0.917	+0.500	+0.917	+0.417	-0.083	+0.917

注) 高原農業研究所による (基準米: 高原農業研究所産日本晴)